

いという指摘があった。前田さんの話では寒帯前線ジェットにもトレンドがある。トレンドがあるからといって、それが全て温暖化と関連するとは言えない。モデルでどのように再現されるかを見ると、温暖化のせいかどうかある程度分かってくると思う。木本さんの所の実験ではどうか。

木本：過去のトレンドは難しい。できるモデルもあるようだが、うちのモデルはあまりよくない。

司会：10年スケールの変動はどうか。

木本：あまりよく見ていない。大西洋のSSTと連動して、NAOの10年スケールの変動が出るモデルがあるとされている。

司会：気象研究所のモデルではどうか。

行本：過去のシミュレーションのアンサンブル平均でAOらしきものが見える。夏の方がむしろはっきり見える。

谷貝(気象大学校)：戦前の昔の冷夏と今とどう違うかということだが、北冷西暑が最近顕著になってきている。昔は地球が全体として寒冷化している中で日本の冷夏があったが、今は地球全体として温暖化しているにもかかわらず北日本では冷夏が頻発している。

中村：前田さんの話にもあったように、暑夏の94年と

冷夏の93年の両方とも導波管がしっかりしていた。温暖化の関連で陸面が温まって行けば導波管がしっかりしていこうと考えられるが、それは必ずしも冷夏が増えるということではなくて、変動が大きくなるということである。変動の大きさに注目して予測を考える必要がある。それから三陸沖というのは、冷たい親潮の上に季節的に日射で暖められた躍層ができていて非常に壊れやすい。十年変動でも、年々変動でも三陸沖のSSTの変動はきわめて大きい。昨年例でも、オホーツク海高気圧がいったんできて下層雲が出て日射をさえぎると、海が冷えて安定化する。そういうフィードバックがかかる。そのあたりの結合系のモデリングが大事になってくると思う。

司会：まだ議論が尽きないようだが、予定の時間を大幅に過ぎたので、そろそろ終わりにする。今日の議論で、日本の冷夏、天候に関する様々な要因に関してある程度考えが整理できて、今後の研究課題が明らかになったと思う。その課題の解決に向けて研究が進展することを期待して、このシンポジウムを終わりにしたい。

(文責：杉)

2006年度春季大会の専門分科会の実施方式とコンピーナー募集

1. 2006年度春季大会の専門分科会の実施方式：

2006年度春季大会の専門分科会については、これまでと同じように下記のとおり実施される予定です。

- (1) 2回に分けてそれぞれ数件ずつ開催する(期日は未定、時間は3時間程度の予定)。分科会の運営はコンピーナーに委ねることとし、コンピーナーは公募する。分科会には申し込まれた講演の採否はコンピーナーの判断による(不採用の場合は、申込者の希望に応じてポスターへの振り替えあるいはキャンセルになる)。コンピーナーのアレンジによる招待講演も可能、招待講演のみの分科会も認める。

- (2) 分科会の数は1日2-3件を基本に考えるが、申込が多かった場合は、「同一会場での1日に2件の開

催」、「類似テーマのものとの共同開催」、「大会会場外の会場の利用」等の調整を行う予定である。今後のスケジュールは以下のように予定しています。

- 10月5日(水)：分科会のテーマとコンピーナーの募集締切(詳細は下記)
- 12月末：大会告示(「天気」12月号に掲載)
- 2月上旬：講演申込締切
- 2月中旬：プログラム編成
- 補足：会期は2006年5月21日(日)～24日(水)、会場はつくば国際会議場の予定です。

2. 分科会のコンピーナー募集：

上記の実施方式に基づき、2006年度春季大会におけ

る分科会のテーマとコンピーナーを募集します。コンピーナーには、分科会の企画から実施まで全般にわたる世話を担当して頂きます。主な役割としては、

- ・テーマの立案、応募
- ・講演申込の受付、プログラムの作成（招待講演の設定、講演持ち時間の配分、座長の手配等を含む）
- ・大会当日の分科会の運営
- ・大会終了後の報告原稿作成（感想および400～800字のレポート）

があります。これらを円滑に進めるため、コンピーナーは分科会ごとに複数の方をお願いします。またプログラム編成期（2006年2～3月）には、講演企画委員会と常時連絡がとれるようにして下さい。

応募に当たっては、以下の点に留意して下さい。

- (1) テーマは「メソ」「気候」のような漠然としたものではなく、実質的な議論を深めるという分科会の目的に沿うよう、テーマを絞り明確なコンセプトを持つものにして下さい。なお、テーマは講演企画委員会が適宜調整し、理事会での承認を受けるものとします。
- (2) 大会方式についてのアンケートなどでは「分科会の性格を明確にしてほしい」という要望があります。「最先端の話題について議論を深める」という性格の分科会の他に「啓蒙的な性格で、主に情報提供を目的とする」分科会もあって良いですが、いずれにせよ「趣旨説明」の中で分科会の目指す方向を明確にさせていただくようお願いします。
- (3) 分科会の割り当て時間は3時間程度です。講演持ち時間はコンピーナーの判断に任せますが、1件当たり15分程度は確保して下さい。また、分科会が単なる「時間の長い口頭発表セッション」に

終わることのないよう、議論の時間を十分に確保して下さい。

- (4) 招待講演も歓迎します。その内容は必ずしも original paper である必要はありません。招待講演者がすでに決まっている場合にはこれを「趣旨説明」に書くなど、申込者への情報提供を図って下さい。なお、専門分科会の招待講演者に限り、会員か非会員かを問いません。ただし、規定の大会参加費はお支払い頂くこととなりますので予めご承知おきください。
- (5) 分科会会場の収容人数はそれぞれ100～200人の予定です。

3. 申込方法

以下の事項を明記して郵便もしくはE-mailで申し込んで下さい。

1. 分科会のテーマ
2. 分科会の趣旨説明（200～400字）
3. コンピーナーの氏名・所属および代表者1～2名の連絡先（電話・FaxおよびE-mail）
4. 分科会に講演を申し込む場合の郵送先
上記は「天気」12月号に掲載されます。要望があれば電話、Fax、E-mailも掲載します。

4. 申込先：〒305-0052 茨城県つくば市長峰1-1
気象研究所予報研究部
講演企画委員会（永戸久喜）
E-mail：org-msj@mri-jma.go.jp

5. 申込期限：2005年10月5日（水）必着